

2022 競技者必携 審判の部 修正点

基本方針

10月27日(水)、審判小委員会(正・副委員長出席)をリモートで開催し、各地区選出の審判委員より2022年度の「オフィシャルソフトボール ルール」「競技者必携」の改正点・修正点について協議を行った。

競技者必携については、掲載内容・イラストを改訂・修正する以前に、実技指導において、「なぜそうするのか」「なぜそうしなければいけないのか」、正確で公正なジャッジを行う上での技術的なポイント、押さえておかなければならない要点を整理・理解させ、実際のグラウンド上で実践できるようにすることが重要である。

競技者必携の掲載内容の改訂やイラストの修正も必要に応じて行っていきたいとは考えているが、まずは実際の実技指導において、よりよいアンパイアリングを実践できるよう指導すること、高い審判技術を身につけていくためのコツ、ポイントといったことをよく理解させていくよう、実技指導に力を注いでほしいと考えている。

2022 競技者必携 改訂(修正)点

5. 審判委員会申し合わせ事項 11.その他(P48)

改正(修正理由)

近年、様々な「打撃補助用具」が販売されるようになり、実際に使用している選手も見受けられるようになった。ただし、(公財)日本ソフトボール協会が使用を認めていない用具は「公式試合では使用できない」ことを明確にするため、競技者必携に記載した。

「5. 審判委員会申し合わせ事項」の「11. その他」に、

(10)を新設し、

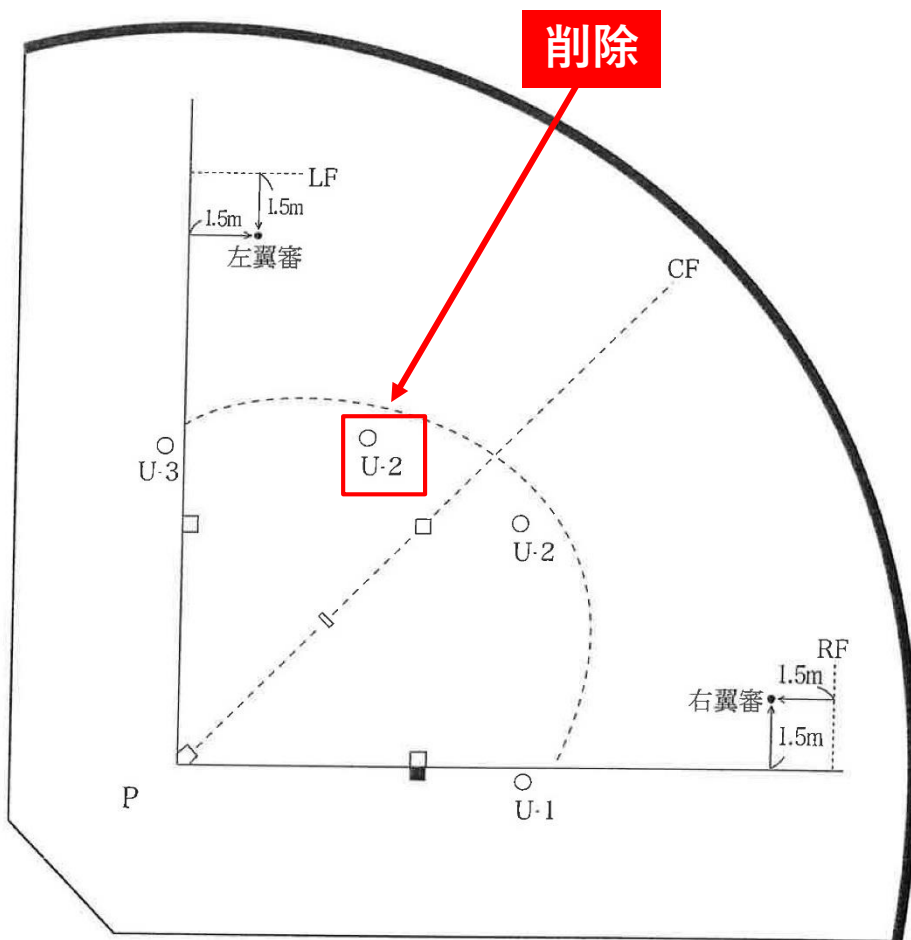
(10)(公財)日本ソフトボール協会が使用を認可していない「打撃補助用具」は、公式試合においては、それを使用してはならない。

※現時点では、「ペナルティ」等を課すのではなく、「(公財)日本ソフトボール協会が主催する大会、公式試合では使用できない」ということの周知徹底を図ることを第一義とする。

6. 審判実務のために 6.外野審について 外野審の位置(P67)

改正(修正理由)

レフト方向の ○U2 を削除する。
※二塁塁審がその位置にいることはないため。



10. 投手板の踏み方・踏み出し方(P122)

改正(修正理由)

イラスト④を追加し、投手板後方で軸足のつま先が投手板に触れていれば、不正投球にはならない事例を追加した。また、イラスト事例の説明を一文にまとめ、赤字部分を追加・修正し、イラスト下に配置した。

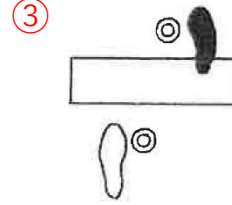
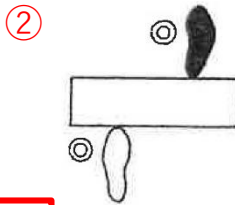
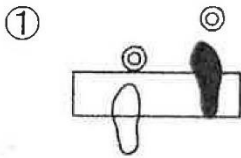


◎ 合法

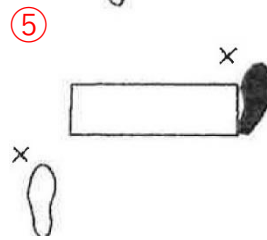
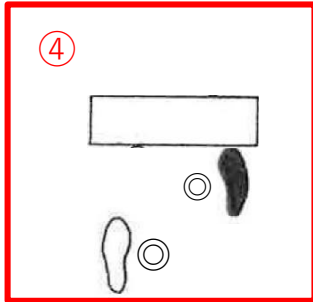
× 不正

〔右投げ投手〕

【踏み方】



④
新設



図①、②のように、軸足、自由足とも、両足が投手板に触れているか、図③、④のように軸足を投手板に触れながら、自由足が投手板から離れていても不正投球にはならない。また、**一連の投球動作で自由足の踵の位置が投球開始時と変わらなければ、自由足のつま先が浮いても、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。**

図④のように軸足のつま先が投手板に触れながら、自由足を後方に置き、正しくセットしており、**一連の投球動作の中で軸足の踵の位置が投球開始時と変わらなければ、軸足のつま先が浮いても、合法的な投球動作であり、不正投球とはみなさない。**

図⑤のように軸足が投手板の側面だけに触れている場合は投手板に触れているとはみなさない。また、自由足を投手板の後方に置く場合は、投手板の両端の後方延長線内に置かなければならない。